

## SRC 発表用紙

### 1・アイドルの定義

現在テレビやインターネットで多く見かけ、多くの支持を得て人気を博している。そのアイドル人気は現在始まったわけではなく、過去にはおニャン子クラブやモーニング娘など多くのアイドルがいた。ではそのアイドルとは何時ごろ誕生し、なぜ人気が出たのか。『「アイドル」という言葉は、英語の“idol”に由来するが、日本でこの言葉が使われたのは、一説によれば1970年代初頭に活躍した南沙織、小柳ルミ子、天知真理からであるといわれる。』

『「スター」とはファン層をなす「一般」からは質的に優越方向にそむき離れた特殊な存在であり、マックスウェーバー流に言えば「カリスマ」の一形態である。他方、「アイドル」とは「一般」と同じ平面に縛り付けられた存在であり、それ自体がアイドルの特徴である』

つまりアイドルとは、手の届かないスターやアーティストとは違い、素人っぽさを残した妹のような存在ということがわかる。身近な存在に感じられる、そこがアーティストとアイドルの違いであり、アイドルの定義となっているのである。

### 2. アイドルの歴史

ここで簡単に日本のアイドルの歴史を紹介したいと思います。

1970～80年代、小泉今日子や中森明菜がデビューした1982年はアイドルの黄金時代といわれ、1980年代後半では、南野陽子、浅香唯、中山美穂、工藤静香の4人がアイドル四天王と呼ばれていました。

1990年代もさまざまなアイドルがデビューしていますが、テレビの歌番組の減少とともに「アイドル冬の時代」「アイドル氷河期」を迎えます。

2000年代は従来のアイドルよりも歌唱力や作詞・作曲力を求められるようになり、

**KARA** や少女時代などの韓国のアイドルも日本でデビューするようになりました。

そして今、2010年代は、アイドルを名乗るタレントの数が日本の芸能史上最大なので、「アイドル戦国時代」と言われています。

なぜいつの時代もアイドルにはまってしまうのでしょうか。

それは何度も何度も目にするからです。そして、このことを単純接触効果といいます。

それを実証するデータがあります。ベルギーのカソリックルーベン大学の心理学者O・コーネルが、63人の大学生を対象にある実験を行いました。まず、人の記憶力に関する実験と称して被験者に40名の顔写真を見せます。次に、人の評価に関する実験と称して80名の

写真を見せ、1枚ずつ評価してもらいます。

実は、この実験はカラクリがあり、2回目の実験に見せた80名の顔写真のうち、40名の顔写真は1回目の実験で見せたものが含まれていました。その結果、1回目に見たことがある顔写真を魅力的だと答える人が多いことが分かりました。つまり、人は一度見たことがあるものに好意を抱きやすいのです。だから、露出の多いアイドルにはまってしまうのです。

### 3. アイドルの今後

代表的な例としては、ローカルアイドルにおいて最近ネット上で話題となっている「ゆみーる」はももクロをしのぐ人気である。ブサイクで別に何か特技があるわけでもないが、そのブサイクというのを売りにしている。ようは何か人々をひきつける要素があればよい。また、自分をアイドルとして売り出し、環境を作ってしまうえば人が集まり、アイドルのような扱いになる。現代において発達しているSNSを使って時代の先端に行くアイドルなのかも知れない。

そして最近、「くまモン」をはじめとする地域のマスコットの存在、ご当地アイドルはもはやアイドルの垣根を越えている。というより人間でない。これは昭和頃のアイドルというものにない形だ。

マスコットでもアイドルになってしまうのだ。

そして、初音ミクのような2次元型アイドルはオタクを中心に人気を博していくと考えられる。

これも今までのテレビに出るような全国区ではなくネットの世界で作られたアイドルである。もちろん、世の中でも知る人ぞ知る。

アイドル=使い捨て商品のようなもので現れては去って、また新しいアイドルが誕生するというサイクルは変わらないのではと感じる。

先ほどの「ゆみーる」も地元のアイドル(ローカルアイドル)であり、AKBなど全国的に知名度のあるアイドルとは違うものが多く出現するだろう。